

---

# もう少しだけ

愛理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もう少しだけ

### 【NZコード】

N8423A

### 【作者名】

愛理

### 【あらすじ】

組織は壊滅。彼は元の姿に戻り、幼馴染みの彼女は本当の笑顔をとりもどした。全てがもとに戻った。たつた一人の小さな科学者を除いて。 カゼをひいた哀。見舞いにきた新一を直視できない。

『言葉を交わす度、胸の奥に閉まつたはずの気持ちがザワつ

く……』

## 冬のカゼ（前書き）

夏場に冬のお話です。。あつぐぬしー（苦笑）

もつひとつ的小説

忘れてあげない

もぼちぼち更新していくきます。遅れてすみません（^\_^；

とつあえず灰原さんのおはなし、おたのしみくださいー！

## 冬のカゼ

トウルルルル、トウルルルル、トウルル、

ガチャ

「はい、阿笠ですけど。……あ、……久しぶりね。

……博士？今いないわよ。知り合いの娘さんの結婚式に出席するつ  
て、……ええ、そうね、帰るのは明日って言つてた……ゴホッゴホッ……  
……あ、ちょっと風邪を……ゴホッ……え？いいわよ。……

別に大したことないし、

だからいいってば、……ちょっと、……もしもし?」

ツー、ツーと、冷たい電子音を放つ受話器。

静かにスタンンドに戻す。

「はあ……」

ついで、少女のため息はガランとしたリビングに結構響く。パジ  
ヤママの上からオフホワイトのカーティガンをさつとはおるとパタパ  
タと少し大きめのスリップパで歩く。ストーブの前で足を止める。2  
6度、設定温度を少し上げた。さつきより強まつた温風がカーテン  
を揺らす。

隙間から見えた空は鉛色をしている。今にも雪か雨が振りそうな、  
重たい雲。

しばらく窓ガラス越しに、ボーッと眺めていたが冷えたのか、咳が

酷くなつたのでベットに戻ることにした。

スリッパを脱ぎベットに入る。サイドボードに立掛けたるカレンダーは12月になつていた。

(一ヶ月振り……かしら。)

また、ふうとため息をつくと毛布で口元まで覆つた。

## 壊滅

1年前、「黒の組織」は壊滅した。

このたつた二文字の言葉では言い表せない、激しい戦いだった。

組織の大半の人間がアメリカに引き渡され、その国の法の元で裁かれることになった。

マスコミ各社も連日その話題でもちきりだつた。なにせ、政財界、経済界の大物が次々に捕まるという異例の大事件。名目こそ、汚職だの脱税だのということになつてゐるが、詳しい発表はまだされていない。

あまりにも大きな組織。捜査は慎重に慎重をかさねてゐる。そのためマスコミへの情報開示はほとんどない。

当時はそんなこともあつて日本警察は相当叩かれたが、毎日の様に起つた凶悪事件に国民の関心は薄れ、何も変わらない毎日にいつの間にか戻つていつた。

「 哀ちゃん出来たよーー。ほーい玉子粥ー。」

「 … ありがと」

ゆづくつと上半身を起こしてお粥を運んできた女性にお礼を言つ。腰もとまで伸びたしなやかな黒髪は同姓である自分の目からみてもため息もの。

「 … 味はどうかな? ?」

「 えつ … 、ええ美味しいわ」

レンゲを持ったままお粥を見つめ止まっていたので、その女性は少女の顔を覗きこみ尋ねてみた。少女は、はつとしてお粥また食べ始めた。美味しいという言葉にほつとした女性はそつか、よかつたと言ひキッチンに戻つていつた。

バラの香りが鼻孔をくすぐる。シャンプーだらつか。いやみが無く爽やかな香り :

あの女性にぴったりの…

「 オメー、食欲ねえのか?」

その声に体は反応する。瞼は上がり、心臓の鼓動は速い。正直すぎる。

「 べつに」

いつも通り応えた。筈。

少しだけ声が上擦ったが気になりはしないだろう。

「まあ、食えるぶんだけ食つとけよ」

カウンターに両肘を付き此方を見つめている。  
食べにくい。

ブルルッ

急に鳴った振動音に驚く。口から溢れたお粥を人指し指で拭つた。  
音の発信源では何やら彼があせつている。

「おーい蘭！電話来てるぞ！..」

「えー？誰からー？」

キッチンの奥から返事をする彼女。洗い物で手が離せないらしい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8423a/>

---

もう少しだけ

2010年11月5日09時59分発行